

## 【研修参加学生の報告書から】海外研修基礎コース in ハワイ

・ハワイの人々の親切さの背景に何があるのかを探った結果、アロハスピリッツというものにたどり着いた。アロハスピリッツとは他人への思いやりやおもてなしの心を示すものである。日本と通じる部分を見つけられたように感じた。日本人移民の資料館に行くと、当時の労働環境が劣悪であったことや真珠湾攻撃の際には日系人が差別や非難の対象になったことを知った。ハワイは様々な人種や文化を受け入れている。日本ではない国を実際に肌で感じる事ができただけでなく、日本人のメンバーと長く過ごすことで人間的にも成長できた。(水産・1年)

・ブリガムヤング大学には多くの留学生が在籍しており、互いの文化が尊重された場所であるように感じた。研修では日本文化とは異なるサモアやフィジーなどの文化を学ぶことができ、とても刺激ももらった。この経験で日本だけの固定観念に固まっていたのは得るものが少ないと感じた。拙い英語であってもチャレンジして、とにかく話してみるという能力は身についたと思う。今回のハワイ研修という経験がこれから留学を試みたいという意欲を奮い立たせてくれ、また同時に自分の趣味を広げ、もっと流暢な英語を話せるようになって多くの外国人とも関係を持ちたいと考えるようになった。(工・1年)

・ハワイの歴史だけでなく日本の歴史についても学ぶことができた。実際に世界で起こった事実をしっかりとして受け止めた上で、今の自分たちの代では何ができるのか、また、同じようなことが起こらないようにするにはどうすればいいのかなど、これからの社会を担っていく私たち一人一人が考えていかなければいけないと思った。ハワイの歴史を学ぶ中で外来種の動植物が多く存在し、良くない影響を与えているという話もあった。この点から、世界の国々は離れているように見えても実際は一つの地球として繋がっているのだと感じた。一つの国の中での問題ではなく、世界全体で解決しなければならない問題であると思った。(医・1年)

・初めて知ることや教えてもらうことがとても多く充実していた。現地の大学ではハワイ伝統のフラダンスに挑戦した。見ている時は簡単そうだと思っていたフラダンスも実際に自分が踊ってみると、腰の動きや手の動き、足の動きのマッチングが大事だということを知った。ポリネシア・カルチャー・センターではポリネシアの村のアクティビティやショーを見ることができた。中には火を使った物もあり、私はその凄さに思わず叫んでしまった。ハワイでの日本とは全く違う文化、生活、価値観はとても刺激的だった。日本にいと当たり前だと思っていたことも、実際には当たり前ではないということも知ることができ、日本での自分の生活を考え直すきっかけにもなったと思う。(医・1年)

・外国人の方とコミュニケーションを図る上で最も重要になるのは、英語を聞き取り、話せる能力だと強く感じた。本場の英語はとにかく速く、聞き取るのも難しかった。しかし、毎日英語を使って生活するうちに、日に日に聞き取れるようになり、また、思ったことを言葉にして伝えることができるようになった。また、日本の文化に誇りを持ち、もっと伝えていく重要性があることを学んだ。ポリネシア・カルチャー・センターでは、私たちの同年代の学生たちが、自国の踊りや歌、演奏を次の世代に残し、世界中の人々に広めるために、堂々と踊りや歌、演奏を披露していた。私は日本文化や鹿児島島の文化をこれほど堂々と伝えられるかと思った。世界中の人にこれらの文化を堂々と伝えられるようになる必要があることを学んだ。(医・1年)

・今回は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、この研修を行うにあたり多くの方のお世話になった。日本だけがおもてなしの素晴らしい国だと思っていたが、それは固定観念に過ぎず、世界にはその国オリジナルのおもてなしの方法があって、それぞれの良さがあることがわかった。マスメディアからの情報だけで判断しようとするのがいかに怖いことなのかよく分かった。パールハーバーでのミズーリ戦艦を見学した時にも感じたことがあった。私は鹿児島に住んでいることもあり、知覧特攻平和会館を訪れたり、直接祖父母から戦争について話を聞いたりすることも今までであった。しかし、当時敵国として実際戦場となった場所で話を伺うことは初めてだった。グローバルな視点から物事を見るということは、ただ世界で起こった出来事を知っているだけではなく、様々な国の視点から一つのことを知っていくことで視野を広げた人ができることだと分かった。また、ポリネシア・カルチャー・センターではブリガムヤング大学の学生の多くが働いていることを知り、若い人が地域を活性化させているととてもいい例だと思った。(法文・1年)

・ハワイの言語を学び、自然や動物と触れ合ったり、ダンスなどを体験したりすることによって、ハワイの文化を見て、聞いて、感じて、直接体験することが出来た。また、ポリネシア・カルチャー・

センターへ行き、ポリネシアの人々の暮らしや文化について学んだ。このセンターでは、たくさんの村の人々が互いに尊敬し合い、それぞれ独特の踊りや歌を受け継ぎながら共存している様子を知ることが出来た。違う村だからと言って争うことなく尊敬し合っている姿がとても印象的だった。

(法文・1年)

・新型コロナウイルスが日本で流行しており、ハワイでは避けられたり嫌な顔をされたりするのかと少し不安だったが実際に話しかけてみると、どの方も笑顔で私の拙い英語にも答えて下さって、私の考えは間違っていたのだと気付かされた。ブリガムヤング大学ではハワイのシャカポーズの由来やプレゼンテーションの際に必要なこと、ハワイならではの言語、自然、生き物、フラダンス、伝説、さらに道案内の仕方、アクティビティを学んだ。ポリネシア・カルチャー・センターでは、ハワイ、トンガ、サモアなどの6つのポリネシアの文化や特徴を学び、実際に島々の特徴あるダンスや火を使ったパフォーマンスを見て、肌でポリネシアの素晴らしさを実感することができた。今回のハワイ海外研修に参加して、コミュニケーションを取ろうとすることの大切さを学び、日本の良さにも気づけたので参加することができて本当に良かった。

(法文・1年)

・ハワイには英語とは異なるハワイ語なるものがあり、島国として孤立していたからこそ現存することが分かった。元々ハワイにいた人々は地元民のみであったが、ハワイ列島発見以降、島に世界中から来訪者が来て、多文化や外来種の動植物などが入り、それが良くも悪くも影響を与えたことを知り、多文化の地に訪問する際は文化に悪影響を及ぼさないような振舞いが必要だと分かった。真珠湾では、戦艦ミズーリを見学し、第二次世界大戦との関係を学んだ。学校の歴史の授業では習うことのできない詳細を知ることができ、より一層戦争での日本の力の弱さやアメリカの強さを認識した。日本にいと日本側からの目線での資料や展示が多いが、アメリカの資料館はアメリカ側からの目線で展示されていて新鮮だった。ハワイに来なければ知ることのできなかつたことを知ることができて、初めて日本を出て外からの視点で自国を見たことは貴重な経験となった。

(法文・1年)

・伝えたいことをすぐに英語にできなかつたり、間違った英語を使つたりしても、研修先の大学の先生方や生徒の方々が、理解しようとして下さって本当にうれしかった。お互いに話す言葉が異なつても、伝えたいという気持ちや相手の伝えたいことを理解したいという気持ちがあれば、お互いのことを理解できるかもしれないと思った。ハワイの言葉やハワイの歴史、自然、文化について教わりながら、自分の住んでいる鹿児島や日本のことについてももっと知らなければいけないと感じた。海外での授業を経験して、自分の意見を持って、大学の授業をより積極的に受けたいという気持ちが強くなった。この気持ちを大切に今後の大学生活を送っていききたい。

(工・1年)

・ポリネシア・カルチャー・センターではハワイのみならず、各島国の文化を学ぶことができた。日本とは全く異なる環境・天候・文化に触れ、これまでの自分がどれだけ狭い世界で過ごしていたかが分かった。普段の英語の講義では学ぶことのできない英語も学べた。この研修を経て、英語を勉強したいと強く思うようになった。将来また海外に行く機会があれば今以上の英語能力を付けて向かおうと思う。

(理・2年)

・実際にハワイの地に立ち、町の様子や通りの雰囲気を感じ、バス等の公共交通機関を利用する中で現地の人々の会話や持ち物から人々の暮らしの一部が見え、タクシーやレストラン等での店のスタッフやお客さんと直接会話することでその人の考えが分かった。これらの経験からハワイの人々の文化を直接体験することができたと思う。ハワイやその他の国の人と日本人との違いにも気づかされることが多かった。海外に行くことで、訪問先の国だけではなく、逆に日本のことについても多く気づくことができた。

(工・1年)

・ブリガムヤング大学ではハワイの言葉や慣習、現地の学生との会話で英語の発音やよく使うフレーズに触れることができた。空き時間には、ハワイの伝統楽器であるウクレレを練習し、ハワイの人々の感性に少しでも近付くことができた気がする。現地の人々や文化を実際に見て聞いて触れて、これから培っていかなければならないグローバルな視点を得ることができた。特に私自身が感動し、考えさせられた言葉が「オハナ」と「アロハスピリッツ」である。前者は「家族」を意味する言葉だが、血縁的な意味ではなく絆のあるものたちにも使う。後者は「アロハの心を持って接しよう。」という意味なのだが、アロハには挨拶の意だけではなく、「好き・愛する」という意味も持っており、日本のおもてなしの心、譲り合いの精神に近いものを感じた。

(農・2年)

